

9. 来年度に向けて

平成28年度の下半期から、国立花山青少年自然の家では「遊んで身に付く36の基本的な動きを取り入れた幼児の運動プログラム」に取り組み始めました。

2015年度学校保健統計調査速報(2016. 1. 22 文部科学省公表)によると、宮城県内の児童生徒の肥満度20%以上の肥満傾向児の割合は、全国平均を上回っており、肥満傾向児の割合は、小6男子、幼稚園女子が全国トップ。体重は、幼稚園女子が全都道府県で1位という結果でした。

2016年度学校保健統計調査速報(2016. 12. 22 文部科学省公表)においても、同様に宮城県内の児童生徒の肥満度20%以上の肥満傾向児の割合は、全国平均を上回っており、体重は、男女とも全学年で全国を超え、幼稚園男児、小6男子、中1女子は、全国1位という結果でした。

宮城県の幼児の肥満傾向児が増えていることが課題となっています。

この課題に「遊んで身に付く36の動きを取り入れた幼児の運動プログラム」が役に立つのではないかと思いました。

年度途中からではありますが、委員会を設置し、試行園の募集を行いました。

本年度の委員会は、県内及び近県の青少年教育施設の職員を委員に依頼し、委員会では「遊んで身に付く36の基本的な動きを取り入れた幼児の運動プログラム」の理解と各施設で実践できるよう試行園の視察も取り入れました。

試行園の募集については、花山青少年自然の家が所在する栗原市と近隣の登米市・大崎市の3市の幼稚園長会、保育園長会等に直接出向き、幼児の体力づくりや自然の中での遊びの大切さについて説明しました。説明の翌日に園長先生から「やりたい」という連絡が入ったこともありました。試行実施前には、試行園に出向き、担任の先生方に直接説明をするということを繰り返しました。

まだまだ地域の幼稚園・保育園に「遊んで身に付く36の動きを取り入れた幼児の運動プログラム」が浸透したわけではありませんので、平成29年度も継続して実施する予定です。

また、平成29年度の委員会は幼稚園・保育園の先生方にも入っていただき、各園への普及に努めたいと思います。

なお、試行実施にご協力いただきました各園の園長先生はじめ先生方に厚くお礼申し上げます。



国立花山青少年自然の家 所長 松村 純子